

答辞

日ごとに陽ざしが暖かくなり、草花も芽吹きだした今日のよき日に、私たち八期生は、晴れて卒業のときを迎えることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、いつも通りの生活が難しい中、本日、卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

ご来賓の皆様、保護者の皆様、私たちのために足をお運び頂き、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば、三年前の入学式、新しい環境、そして初対面の仲間、自分がこの学校でやっていけるのか不安な気持ちでいっぱいでした。

その不安も最初のうちだけで、いつの間にか、多くの友だちができていました。

入学してすぐ、授業や行事などについて教えて頂く、メンターという行事がありました。まだ学校のことを何もわからない私たちに、先輩方が

いろいろと詳しく、そして優しく教えてくださいました。そのことは、とてもうれしく、新しい学校生活のはげみにもなりました。

初めての校内実習では、医薬品のケースを検品するケミカルキャップという作業を行いました。商品の一つひとつが多くの人の手で大切に作られているのだ

と知り、ありがたいなと感じました。

二年生での思い出は、なんと言っても修学旅行です。前日は、なぜかあまり眠ることができませんでした。

行きのバスで睡眠をとったあとは元氣いっぱい、ネスタリゾート神戸で友だちと思いつきり楽しみました。

久しぶりに幼い頃の自分に戻った気がしました。他にも、北野工房では、コインケースの作成を行い、職人になった感じがしました。

三年生での思い出は、生活自立学習です。生活自立学習では、レオパレスの一室を借り、様々な家事に挑戦しました。私は、昼食に電子レンジで

唐揚げを作ったのですが、材料の
調合ミスで味がすごいことになりました。
他にも、アイロンがけや布団しきなど、
担任の先生から、多くのアドバイスを

いただきながら、頑張ることが
できました。お時間の都合上、
本日は一部のみを紹介させていただきました
ました。本当に、将来のために

多くの経験を積むことができました。
この三年間がなければ、社会に出た
ときに困っていたと思います。

私にとって、阪神昆陽特別支援学校
での思い出はかけがえのない宝物です。

入学当初、学校はルールが多く、
自由もそれほどなく思え、少し窮屈に
感じていました。今は学校のルールで

社会人としての判断基準が学べたと、
とてもありがたく思っています。

阪神昆陽特別支援学校で学んだことを
忘れず、これからの人生に活かして

いこうと思います。

温かく見守り育ててくれた保護者
の皆様、校長先生をはじめ諸先生方、
今日まで本当に、ありがとうございました。

この春、私たちは社会人としての
一歩を踏み出します。人々の役に立ち、
「この人と一緒に仕事ができ良かった」、
「この人に仕事を任せておいて良かった」
と思われる人材になれるよう頑張り
ます。

最後になりましたが、阪神昆陽
特別支援学校のますますのご発展と、

皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし、
答辞とさせていただきます。

令和四年三月四日

卒業生代表

西森

一樹